

# 平成 29 年度学校評価書

学校名 兵庫教育大学附属小学校

## 1 学校教育目標

### 人間として生きぬく力の育成

- ・ねばり強く問いつづけ、よりよいものを創り出す子
- ・はげまし、支え合い、共に伸びる子
- ・強い心とたくましい体をつくる子

## 2 本年度の重点目標

- ・子どもと教師が共に成長する研究を推進する。
- ・集団規律と温かな人間関係のある支持的風土のある学級づくりをすすめる。
- ・保護者と共に子どもたちを育む。
- ・支え合う職場環境づくりをすすめる。

## 3 自己評価結果（達成状況）【A：達成している B：概ね達成している C：あまり達成していない D：達成していない】

## 3 分野・領域ごとの学校関係者評価

分野・領域	評価項目（取組内容）	取組達成の状況	評価	改善の方策
学校運営	○組織運営 ・管理職がリーダーシップを発揮し、大学・学部と一体となった学校運営を行う。	・管理職が常に全体を見据えた経営を心掛け、全職員の共通理解のもと教育活動を展開してきた。今年度も昨年度に引き続き職場の労働環境の改善をめざし、会議時間の適正化等を意識させ、効率化を図り、個々の時間を確保できる取り組みを進めた。教職員にも時間管理の意識が芽生えつつある。	B	・今後も管理職が、リーダーシップを発揮するとともにミドルリーダーを育てる。また、芽生えつつある時間管理の意識をより高めさせ、勤務時間の適正化につなげる。
	○学年・学級経営 ・学校教育目標から、学年及び学級の目標を定め、めざす子ども像に向かい子どもの姿を見取りながら計画的に教育を行う。	・学年主任を中心に、常に学年で情報交換を行いながら共通理解を図り目標達成のためや課題を明確にして教育に取り組んだ。 ・学期ごと行事ごとに学年・学級経営を振り返り状況を確認しながら次の活動に生かすように努めた。	B	・学年・学級経営の振り返りの情報交換をする機会を増やし、より教職員間の共通理解を深める。
	○安全管理 環境整備 ・児童にとって安全・安心な環境を整える。 防災教育 ・実践的な態度や能力を育てる防災教育の推進を行う。 健康・安全教育 ・生命を尊重する健康教育と安全教育の推進を行う。	・遊具及び教室の施設・備品について、定期的に安全点検を行い、適宜補修や危険回避措置を講じた。改修計画を立て具体的な整備を推進している。 ・担当教員を中心に計画的に防災訓練を実施し、児童の実践的防災能力を高めた。 1学期：火災、2学期：幼稚園との合同訓練による不審者対応、3学期：地震 ・健康・安全については、栄養教諭、養護教諭を中心に担任の協力を得ながら、それぞれの立場から継続的に指導を行っている。 ・公共の乗り物の使用マナーについては、年々改善が見られている。定期的に、バス停、駅まで教員が同行しながら、指導を継続した。校内で廊下を走っている児童について指導を行い、安全面への意識化を図った。	B	・より、現実的な場面を想定しての訓練とするため、引き渡しも含めた、幼小中合同の避難訓練を計画・実施する。 ・まだ、廊下を走る児童がいるなど課題があるので、安全な学校生活の過ごし方の指導を強化する。
	○保護者との連携協力 ・学校教育目標の達成をめざし、保護者と学校の連携を進める。	・年々、PTAの協力体制のノウハウや引き継ぎが確かなものになってきており、創意工夫のある活動を推進している。 ・PTA役員を中心に様々な学校行事への支援や校内環境の充実など積極的に尽力してくださっている。 ・保護者の価値観の多様化や家庭環境の複雑化等により、子ども間のトラブルや学校への要求等対応に苦慮する場面が多くなってきている現状があり、職員間での情報の共有・共通理解に基づいた行動等教職員の意識向上を図っている。	A	・保護者の学校への協力を感謝しつつ、さらに連携を深める。

学校自己評価結果及び改善の方策の適切さについての評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己評価結果及び改善の方策について概ね良い。</li> <li>・児童の安全管理についてより徹底してもらいたい。来年度以降警備員縮減の方向と聞いているが、不安である。</li> </ul>

分野・領域	評価項目（取組内容）	取組達成の状況	評価	改善の方策
教育・研究活動	○確かな学力を形成するための取組 ・教育課程の改善や学習指導方法の工夫などにより確かな学力の形成をはかる。	・「学ぶ力を育む～子どもの芽を見つめ、伸ばす～」のテーマのもと、年間を通して、前期授業研究会、後期授業研究会、そして研究発表会と、教師は力量を高めながら児童の学力形成に尽力した。・CRT検査によって学力の全体的な傾向を把握することで、基礎的基本的な学力を充実する取り組みを続けている。全国学力学習状況調査では、国語・算数とも全国平均を上回る事ができた。	B	・教師の授業力向上の取組を引き続き行う。 ・まだ、学力の定着が十分ではない児童もいるため、基礎的・基本的な学力が身につくような学習活動を充実させる。
	○豊かな心を育むための取組 ・全校縦割りの集団活動や道徳教育などを通して豊かな心を育むことをめざす。	・道徳教育や異学年交流を通して、豊かな心を育む取り組みを進めてきた。その中で多様な個性を持った子どもたちへ対応するために、附小っ子連絡会で、生徒指導上の課題、学校生活面での課題等を共通理解し、子ども理解への取り組みを強化している。またスクールカウンセラーや大学の専門家の協力を得ながらよりよい発達を支援するための取組を継続的に行っている。	B	・特別の教科道徳の実施に伴い道徳教育のさらなる充実を図る。 ・異年齢集団活動等により子どもの励ましあい、支えあう姿が育ちつつあるので更に取り組みを充実させる。
	○健康な体を培うための取組 ・様々な体験的な活動などを通して健康な体を培うことをめざす。	・体育では、運動文化の視点から児童の実態にあった教材づくりを行い、実践することで健康な体作りをめざした。また、林間学校、臨海合宿、耐寒訓練マラソン大会等では、体力と共に強い意志力を育んだ。 ・家庭での生活習慣を適正に保つために保護者に対して保健日より、給食だよりによる啓発活動を推進するとともに、学校生活の中での安全意識を高めるために学級指導を繰り返し行った。	B	・体育的な行事に頼るだけでなく、自分の生活の中で自ら健康な体を作る意識を高めさせる。 ・基本的な生活習慣の確立のため、「早寝・早起き・朝ご飯」等、家庭への啓発活動を充実する。
	○研究活動 全国規模の研究発表会の開催等による地域を越えた普及・啓発 ・附属学校の研究成果について、地域を越えた全国規模の普及・啓発を図る。 研究開発学校制度等への応募 ・文部科学省等による研究開発指定などを積極的に活用するため、今年度についても積極的な応募を行う。	・研究発表会を本年度は、金曜日土曜日の2日間開催で行った。県外・県内から多数の先生方に参加していただいた。初日は、午後から未来デザインの授業公開、研究協議会を行い二日目は各教科の授業公開を行った。授業参観、研究協議や出版物を通して、本校の研究成果を広めることができた。二日目午後には、教科別分科会に加え、教育シンポジウムを行った。そのほか、地域への本校教育の還元活動として、教科別授業交流会を実施している。今年度は、年二回の授業公開、研究協議、情報交換会を実施し、地域の学校の研究活動に貢献している。 ・平成29年度より平成32年度まで、4年間の文部科学省主催「研究開発学校」の指定を受け、研究継続中である。 <b>研究開発課題</b> 社会の一員として新たな問題を創造的に解決する能力を育むデザイン思考教育を実践する新総合領域「未来デザイン」の教育課程に関する研究開発	A	・今年度の取組から見えてきた新総合領域「未来デザイン」の課題解決にむかって全職員で取り組む。

学校自己評価結果及び改善の方策の適切さについての評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己評価結果及び改善の方策について概ね良い。</li> <li>・附属として全国学力学習調査結果が、全国平均を上回る程度で良いのか、さらなる向上に期待する。</li> <li>・毎年CRT検査を実施しているのであれば、その結果等を中学校と共有することで、児童生徒の学力向上に生かすことができるのではないか。</li> <li>・教育活動の積み上げは大切であるが、長年の取組をもって29年度の評価としてよいのか、単年度としての取組はどうであったのか。</li> </ul>

分野・領域	評価項目（取組内容）	取組達成の状況	評価	改善の方策
地域多校種 連携	○地域との連携協力 ・地域への貢献をめざし学校の教育的資源を生かす ・地域や社会とつながる教育をめざし教育活動を計画、実施する。	・小野市と兵庫教育大学との地域連携推進事業の「理科&科学の地域でのサイエンス祭」へ、本校教員が講師として参加した。 ・「未来デザイン」で地域社会とつながる活動を計画、実施した。 ・地域主催の陸上大会や駅伝大会等のスポーツ行事や北播子ども会議等の文化的行事に積極的に参加していった。	B	・「未来デザイン」での活動が、子どもが地域社会とつながる実践となっているので、さらに発展充実をめざす。
	○附属中学校、幼稚園との連携協力 ・附属学校運営会議のマネジメントのもと、大学・学部と一体となった附属学校園の連携を進める。	・三附属連携推進協議会で、幼・小・中の継続性に着目したカリキュラムの策定に向けて、分科会ごとに取り組むことができた。 ・幼稚園や中学校の様々な行事への参加を教員に呼びかけて、交流の深化に努めた。附属中学校の教科授業研究会に各教科部が参加したり、幼稚園のもちつき行事に参加したりするなどして連携を深めた。	B	・幼・小・中の継続性に着目したカリキュラムの策定を更に進める。 ・幼小中合同の避難訓練を行うなど三校園合同の行事を行う。
	○大学との連携協力 ・大学教員と附属学校教員が研究テーマを共有し、大学・学部内の人的物的資源の効率的活用を図る。 ・附属学校教員が研究実践の一環として大学・学部の授業を担当する。	・各教科等において共同研究を積極的に進めている。研究発表会では、助言者として多くの大学教員に指導を請うことができた。 ・大学授業(リフレクション及び学部授業)を附属学校教員が担当した。 ・研究面だけでなく、学校で日常的に起きる諸問題や課題についても大学との共通理解を図る場を持つようにした。	B	・「大学教員と附属学校園教員との連携専門部会」の組織を積極的に活用する。 ・防災教育について大学と幼小中共同で、「理論と実践の融合」に関する共同研究活動を行う。
	○教育実習 ・大学の計画に基づき、実習生の資質や能力を高められるような実地教育を行う。	・国立教育大学の附属小学校としての教員養成の責務を教員に繰り返し説くと共に、大学から附属学校への教育実習校としての評価や期待を教員に周知して教員の意識向上を喚起しながら、実地教育の充実を図った。 ・初等基礎実習において、共同立案授業等の充実した取り組みが行えた。	A	・初等基礎実習のさらなる充実をめざすと共にその他の実習の在り方を考える。

学校自己評価結果及び改善の方策の適切さについての評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己評価結果及び改善の方策について概ね良い。</li> <li>・子どもが地域とつながった「未来デザイン」の新たな取組は良かった。さらなる充実を期待する。</li> <li>・近隣の公立校、例えば社高校と連携をした取組は考えられないか。</li> </ul>